「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

対　策　分　析　シ　ー　ト

対策メニュー名	センサーを利用した 外気量自動制御システムの導入	シート番号	A11322
システム・設備	空調システム	6 類型	部分更新・機能付加
削減余地順位	全体：31 位　産業部門：123 位　業務部門：24 位		

診断結果と対策提案実施の状況（診断結果は H28～R2 年度診断分、提案実施状況は H28～H31 年度診断分）

表 1．診断結果（対策の削減余地・診断時の提案率）　　▶ 削減余地の大きい 5 業種（診断件数 20 以上）

	全体	産業部門	業務部門	80 娯楽業	47 倉庫業	58 飲食料品小売業	85 社会保険等の事業	83 医療業
削減余地 [千 t-CO_2]	941	0	941	471	133	59	58	47
診断件数	3,303	1,216	2,087	129	62	102	484	179
診断時提案数	33	0	33	0	2	5	2	3
診断時提案率	1[%]	0[%]	2[%]	0[%]	3[%]	5[%]	0[%]	2[%]

表 2．対策提案の実施状況

	全体	産業部門	業務部門	80 娯楽業	47 倉庫業	58 飲食料品小売業	85 社会保険等の事業	83 医療業
事業報告書提案数	31	0	31	0	2	5	2	3
事業報告書実施数	7	0	7	0	0	3	1	0
事業報告書実施率	23[%]	-	23[%]	-	0[%]	60[%]	50[%]	0[%]

表 3．実施された対策の内容

	項目		最大値	中央値	最小値	平均値
提案・実施内容	CO_2 削減量	[t-CO_2/年]	8.0	5.6	4.67	6.0
	導入コスト	[千円]	9,000	2,000	360	2,776
	運転コスト削減	[千円/年]	343.3	230.8	127.5	233.7
	投資回収年数	[年]	26.2	8.0	1.7	9.7
	事業所 CO_2 削減割合	[%]	9.4	0.9	0.193	2.5

表 4．提案された対策の実施理由・未実施理由

実施理由	初期費用が安かったため	0	「省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため」が実施理由の 8 割を占めている。
	補助金を活用できたため	0	
	投資回収年数が短いため	0	
	省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため	4	
	その他　（無回答を含まず）	1	
未実施理由	初期費用が高かったため	4	「初期費用が高かったため」が一番多い。
	提案された設備の機能や運用に懸念	0	
	補助金を活用できなかったため	0	
	投資回収年数が長かったため	1	
	省エネ効果の根拠が不明で確実性がなかったため	0	
	既存設備がまだ使えたため	2	
	対策実施により事業所の操業に影響が生じるため	0	
	その他　（無回答を含まず）	2	

表 5．同時に実施されることが多い対策

同時実施の順位	メニュー番号	対策メニュー名	同じ大分類
1	21031	LED 照明の導入	
2	11135	高効率パッケージエアコンの導入（老朽化更新を含む）	○

※ 特記事項

実施された対策について（表 3）

(1) CO_2 削減量の最大例は、CO_2 換気制御インバータを導入し室内 CO_2 濃度による給排気量の自動制御を行うことを提案したもの。この事例は、導入コスト、投資回収年数、および事業所 CO_2 削減割合の最大例でもある。

(2) 導入コストの最小例は、CO_2 コントローラーを設け、低 CO_2 濃度の場合には全熱交換型換気扇を停止させることを提案したもの。